

前田三遊 （号） 小説家、新聞記者、部落解放運動家。明治二十一年十月十七日京都生れ、大正十一年十一月十六日歿（一八六九—一九三三）。舊姓大田、本名貞次郎。別號三遊生、交天河、大愚庵主、焉然居士、素鐵公、花のや瓢、花の家ひきこ、花の家主入、花の舎ひきこ、花廻家瓢、銅面郎。中江兆民の佛學執筆を學ぶ。兆民主筆『東雲新聞』記者等を経、明治二十九年『藝備日日新聞』主筆となり、部落問題關係の論説多數執筆。四十年廣島市福島町一致教會顧問、のち縣共鳴會幹事等改善事業に參與。

小説に『近世浪華之襟鏡』（焉然居士名、上篇・明治二十一年十一月日新社）、『親は大塚子は明治當世』一人娘—一名少年の戒め』（花廻家瓢名、明治二十二年一月二十九日博集館）がある他、『鏡』（素鐵公名、明治二十二年三月十八日大阪・敬文堂、綺文館發兌）、『浮世小説家の袋』（明治二十二年四月十一日大阪・岡本書房）、『大愚放語—附録小説屋内旅行』（明治二十四年十一月二十日大阪・岡本偉業館）、『聾畫人—承・十方舎—丸』（大正五年六月—十八日洛陽堂）等多數の著書がある。

